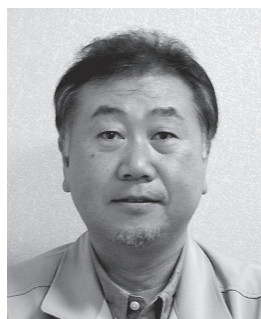


木のぬくもりを、暖かさを伝えたい

(株)太田材木店



代表取締役 太田正昭氏
柏崎市東原町 12-2
Tel.24-1511 Fax.24-1512

八号線を長岡方面へ向かい、原町の信号を右に曲がると、大きな看板が見える。「(株)太田材木店」さんへ取材に伺った。広い敷地で一ヘクタールはあるという。奥の事務所で社長の正昭氏に話をお聞きした。

正昭氏は昭和四十年生まれの五十二歳。中学校までは刈羽村の赤田で過ごし、長岡高専へ。その後東京の建築専門学校へ進み、卒業後は長岡の建設会社へ就職した。三年半勤め、同郷の奥様との結婚を機に「太田材木店」へ……。

小さい頃から木は身近にあり、会社を継ぐのは当たり前だと思っていたそう。元々は祖父の長次郎氏が昭和三十三年に桐下駄の材料から始めた。時代とともに変化を求められ、現在は県内産の「越後杉」を使用し、和風住宅を中心に洋風住宅や

リフォームを手がけている。

「今の若い人は、家を建てようとするときまずインターネットで検索する。すると安くて見た目のいい、お洒落なハウスメーカーがトップに出てくる。それではうちのような会社はなかなか知ってもらえないので、今ホームページにも力を入れていきます」さらにもっと木のことを知ってもらおうと「ものづくり補助金」にチャレンジし、昨年から木材にトレーサビリティ（流通の履歴）を入れることにした。

木材の生産地・樹齢・伐採、製材年月・製材者・曲げ性能・含水率・色艶・等級まで知ることができる。印刷された木を見せていただいたが、そんな所から来てくれたのかとそれだけでも愛着がわいてくる。その木で建てた家を何十年後リフォームする時、木の履歴が出てきたらまた次の世代に繋がるのでは、と考える。

補助金申請にチャレンジしたおかげで、いろいろな人と繋がりができ、刺激を受けることも多かったようだ。今後は若い人達に山に入ってもらい、木を切るのを見てもらったり、山を感じてもらおうような企画もしていきたいとアイデアは膨らんでいる。

穏やかな語り口だが、木の話になると熱い!!「木を切ったときすごい水が出るんですよ」「木が倒れるときの音聞いたことありますか?」ないです!知らないです!

「新潟の柏崎の山を守ろう」とすると地元の人を育てなければならぬ。山を持つている人も高齢化し、山の手入れができず荒廃していく。地元の杉を使い家を建てることで、次の植林に繋がりに山に還元することになる。そういう付加価値にお金を出してもらいたい」「木を切るにより木の命を頂いている。そしてその木の発するエネルギーを、住む人に感じてもらいたい」と話す。

休日は三人の息子さんが野球をしていることもあり(甲子園にも出場)応援に駆け回り、シーズンオフには奥様・娘さんと県内外の神社仏閣を回るという優しい父親の顔がうかがえる。新潟の山や人が元気になることを応援したいと思った、うれしい取材だった。

(編集委員

(※・販 取材)

